

第3回「市長と大盛トーク」詳細

開催日時：平成26年1月24日（金曜日）10時から11時30分

開催場所：光南台公民館

テーマ：「地域の振興について」

第3回目は、光南台中学校区の皆さん13人が参加し、大森市長と意見交換しました。

大森市長 開会あいさつ

今日は朝からありがとうございます。今日で三回目です。いろいろ市政について思われていること、また市政とは直接関係無くてもこういうふうにしてみたいとかこういう問題があるとか、いろいろなことがあるでしょうからそういった点について今日は発言を頂ければありがたいなというふうに思っております。よろしくお願いします。

参加者の皆さんと市長の主な発言

参加者：防災に関して、私が住んでいる小串学区は、今まで高潮で相当な被害を受けてきました。私が知っている中では、平成16年の16号台風ではほとんどの世帯が水に浸かりました。怪我人や死亡者はいなかったのですが、大変なことになりました。そのため、市や県と話し合いをし、高潮対策をしてもらいました。

また、岡山市に東南海地震で震度6以上が起こって、津波が来ると浸水深が3メートルという予想ですが、津波がもしきた場合は小串が一番に到達する場所であります。そのために、毎年1回9月1日には防災訓練をしています。いろいろ3、4年の間やっていますが、去年の防災訓練の、その3日後に台風で避難勧告が出ました。その防災訓練の時に200人の方が参加していたのですが、いざ避難勧告が出た時、10人しか避難をされなかった。それで皆はどうしていたのかというと、「いや、もうその当時は雨も降っているし2階に逃げとけばいい」というような考えでした。私の学区は高齢化が岡山市でトップクラスで、高齢者によっては一人暮らしの方や動けない方がいて、この方々は民生委員等をお願いして、誰々が動けない、誰がどの人を避難させるかをだいたい決めております。実際できるできないはわかりませんが、そういうような訓練をしているのですが、まだまだ認識が低い。岡山は大きな被害がないので、危ない時には避難するという認識がなく、それが一番怖い。だから年に1回は訓練をしようとする防災の日の9月1日と決めて、小学校を交えてやっています。また、高齢化が進んでおりますので、小学校児童数が31人になりました。去年の暮れに小学校が開校記念140周年行事をやったのですが、児童がどんどん減っていく過疎化の問題が出てきていますので、是非ともこの光南台地域を盛り立てていくような何かをこれから行っていかないといけないと思っています。

参加者：学童保育の「くじらクラブ」の会長をして 3 年目に入ります。運営委員会の時、年に 4,5 回施設にお邪魔します。行って感じることもありますが、ワンルームで設備面がすごく不自由しているのではないかと思います。子供が手洗いするのも、厨房的な狭い洗い場で手を洗っているのですが、それが一箇所しかないのです。この間も年末に餅つき大会をしたのですが、子供に手を洗わせるのに 1 人ずつしか洗えないし、普通の流し台ですから背が合わないので時間がかかってかかって。インフルエンザも多いことですし、手洗い場も一つで、まして厨房のところなのでこれは少し不自由だなと指導員の方に言ったら、「そうなんですよ。」と言われました。それから特に困っていることが、子供の調子が悪くなった時にちょっと休ませてあげるスペースも何にもないのです。とにかくドアを開けたら全部見えるのです。だから、カーテンがあつて横になれるスペースがあるとか、そういうところも必要だと思います。それから、トイレもあります。小学校のトイレをお借りしているのですが、そういう面からもある程度設備をもう少し考えていただけたらいいなと思います、充実をお願いしたいです。それから指導員の方の仕事がすごく多くて、やはり子供達に専念できないのではないかと思いますし、人数がもし 20 名以下になった場合には、指導員が 1 人になるそうなのです。その可能性もあるのではないかという気がして、指導員の方も不安げに言われます。その辺を考えてあげてほしいなと思いますので、よろしくをお願いします。

参加者：小串地区の民生委員をしております。小串地区の状況というのは、人口が 1600 人程のうち 65 歳以上が 40%弱で、岡山市内でナンバーワンです。岡山市の中で、信号が無い、ただ一つの地区だそうで、それだけ優雅なのんびりしたいところだと思います。

桃太郎荘という国民宿舎が何年か前に無くなりまして、高齢者が多い中バスの便が三分の一になったのかな、1日 5,6 本しか通っていません。それから食料販売店も無くなり、日用品の買物なども車を運転できない方は大変だろうと思います。知り合いに乘せてもらって買物に行ったり、宅配をとったりしている状況で、一人暮らしの方は車を運転できないと生活しにくいところでもあります。海あり山あり非常に環境的には良いところなんです。町内会長の会で、なんとかバスの便が増便できることはないかなということをお願いしている、地元からの声が出ていますが、やはりお金がかかることで、その辺のところ日常生活を便利に使いやすくしていただければというご協力いただきたいと思っています。

参加者：甲浦小学校 P T A の役員です。甲浦小学校は今児童数が 276 名ほどいます。今の防災の話に関連して、甲浦小学校では何かあった時のためにということで、児童 1 人あたりの量を決めてペットボトルの水とクラッカーを準備、備蓄をしています。今年度は参観日を使って DVD を見て勉強したり、備蓄のクラッカーをどんな感じなのか食べてみたり、災害時に保護者の方と引継ぎを考えて、学校に来てこういう風に引き継ぎましょうという

練習をしたりしました。大学の先生に講演会をしていただいたのですが、甲浦学区は何か災害があった時に安全な場所がないらしいのです。小串小学校のほうが安全ですと言われました。甲浦学区は、どこが安全なのかと言われたら申し訳ないけど安全な所が無いそうです。避難場所が小学校になっているのですが、山が崩れたり、沈んだり地質学上安全ではないと言われました。「どこに逃げればいいのか」という声が上がっています。

参加者：小串も小学校が避難所にはなっているのですが、やはりそこまで行く幹線道路等が全然使えないと考えています。それは何故かという、やはり水害。小串は普通の大潮時に浸かりますので。そして小串は第一避難所というものを設けております。ここは建物は無いのですが、山にある運動公園などを決めています。

市長：避難するのも、どんな災害によってかで変わりますよね。地震ということであれば、校舎の耐震性が問題になるのですが、岡山の小中学校は、必ずしも全国の中で耐震比率というものは高くありません。以前はそれほど耐震をやっていなかった。岡山にくる地震がそれほど無かったというのがあるのですが、それほど耐震比率が高くない。今教育長が一生懸命にやっています。だから地震については小中学校はもう少ししたらどこでも安全だということになります。あと高潮や水害は、私は小学校の周辺がよく分からないのでなんとも言えないのですが、一律の判断というのは難しいと思います。避難指示や勧告がでたらその避難所に行けばいいというのが一般的にはあるのですが、ケースによっては今の道は冠水していたら危ないというのがあります。家の2階にいたほうが良いという場合もあるし、それは先生方がいろいろと考えて、それこそ町内会とかいろいろなところで考えていくと思うのですが、臨機応変に対応していかなければいけないということになります。

参加者：通学路の問題なのですが、通学は県道岡山玉野線を通ってくるのですが、ガードレールが無い。木はあるのですが、ガードレールが無い。木が無いところにもガードレールが無いんです。大きいトラックが通り、危ないのでガードレールが付かないかなと思います。

参加者：空き家の問題がございまして、大阪とか東京の方へ地主さんが出られています。ここに住んでいないのですが、先祖代々の土地であるから売ることをしないのです。市のほうからある程度何らかのフォローをしてもらいたいというような要望があるという話を聞いてます。

参加者：甲浦学区で民生委員をやっています。今まで防災の話が出ていますが、私の地区は約700戸弱ある非常に大きな町内会なのですが、県道岡山玉野線の海側と山側と両方に町

内が分かれています。同じ町内会でも海側と山側と住民の防災に対する感覚の差が非常に大きい。ですから、避難命令が出て、動かなくていい人と即刻動かなければならない人と、先ほど避難場所の話も出ていましたけどケースバイケースによって避難場所をその都度考えなければいけないというような状況です。ですから防災訓練を行ったりはするのですが、やはり地域住民の意識が一番の問題だなと思います。民生委員は分かるのですが、お年寄りには逃げられないし、だからといって消防団が発見しても逃げられない皆を助けてあげるわけにはいかない。だから、基本的には自分の身は自分で守るようなことをしなければならないのですが、私が思うには、その意識が住民の中に伝わっていないということが非常に問題かなと思います。

それからもう一つ防災に関しての話ですが、設備は確かにいろいろあるのですが、設備のメンテナンスに非常に問題がある。例えば海側でいいますと、防潮堤があるのですが防潮堤に所々漁業船のための穴とかありますし、高波、洪水のための大きなモップ状のものを市が作って下さってますが、そういう高波、洪水のための設備のメンテナンスが非常に問題になっています。それはやはり地域住民が高齢化しているということもありまして、一体誰がその設備等の維持管理をしていくのかというのが今問題だと思います。それは町内会の地域の中の代表者とかが自発的にはやっているのですが、まもなくそれができなくなってくるのではと思っています。結局は被害を受ける。受益者負担という言葉があり、利益を受ける人が本当はやらなくてははいけないのですが、それができなくなっているのではないかなと思います。それから山側の問題は、池の堤が非常に老朽化していて、改修して特に手を掛けてもらっているのですが、予算の関係や人の関係もあって、そこに手が回っていないような状態ではないのかとも思います。市にいろいろお話をしているのですが、私から見て、あれもやれこれもやれと言ってもできないこともあることは分かるのですが、少なくとも状況を調査して、今の現状がどうなのか、どこが問題なのかということだけは市の担当者もよく知っておいていただきたいと思っています。防災には力を入れてくれているのですが、私としてはこれでいいというところまではまだまだいっていないなという気がします。防災に関しては、設備のメンテナンスは是非とも力を入れていただきたい。町内のほうも協力をします。

あとは、猪の話。近年すごく猪が増えてまして、町内で猟友会から猪の捕獲設備を借りて、毎日餌やりをして捕獲しています。しかし、最近中々獲れないんです、今年は子供を含めて13頭くらい。最近はだいぶ少なくなってきました、これは効果があるのではないかなと思っています。猪の被害はまだ多くは出てないですけど、町内で猪対策をして、今年少しその効果が表れてきたというように思っています。

参加者：淡水湖の水位についてお願いします。春から秋にかけて、その時期に農業用水に使われる関係で、淡水湖の水位が30～40センチ、秋から冬にかけての水位よりも上げて維持されるんです。雨が降るとすぐ淡水湖の水位が高くなります。少し雨が降るとすぐ

うちの団地の方に水が来る。ここ 4,5 年は特に水位が高いように感じている。去年も、少し雨が降ると、淡水湖の淡水湖漁業の船溜まりの作業小屋へ、県道から降りていく道路は 30 メートルぐらいいつも水がひたひたで浸っているのです。平成 23 年の 10 月頃に倉敷とか八浜が浸水した。あの時は、うちの団地も道路の上 26 センチまで水に浸かった。3,4 軒ほど床下浸水があった。地球温暖化が進んで降雨量が増えたのかとも思うのですが、どうしても淡水湖の排水ができない現状みたいです。私たちがお願いしたいことは、強制排水が難しいということになれば水が来ないように堤防をつけてもらいたい。浦安には、水面から 3 メートルぐらいの堤防があります。郡の方には全然堤防がないのです。せめて 2 メートルぐらいの堤防でもつけていただきたい。

参加者：小串では、小学校の児童数が 31 人。私がこの町内の役員をして 2 年になるのですが、1 年目の時に 49 人。それが今年になって 31 人。このままだと小学校が無くなるのではないかという危機感があります。小串小学校はこの前 140 周年を迎えたのですが、私は中心部の学校にはないような魅力的な小学校だと思うのです。ですから、中心部の小学生を小串の小学校に呼んでいただけるような PR やバスで通学できるようにするとか、そうすれば、小串の良さが分かってくるのではないかと思います。

参加者：甲浦小学校も少なくなってきたのですが、今年の 1 年生は学級が 1 クラスになったのです。

参加者：今の付け加えて、今年、幼稚園に入る子どもがいないんです。この 2 月に 1 人入ってくるような話はあるのですが。その施設で「くじらクラブ」の子たちを遊ばせたり勉強させたりしているのですが、もしも幼稚園が閉園になるとできなくなります。

参加者：それはやはり、調整区域という大きな問題があり、調整区域には、いくら自分の田畑があっても、自由に家が建てられないのです。家が建てられれば、小串のほうへ帰って来る方もおられるし、甲浦にも帰ってくるのではないのでしょうか。

市長：個別のニーズは別にして、そういう区域というもので線を引かないと至るところに家が建ってきます。そうすると、何をやるにも、例えば交通の話も下水道の話もいろいろな話がありますが、とにかく効率は良くないですね。ですから、街に集まって、ここは市街化、皆が住むところだということと、別のところでここは農業するところだとかというように分けていかないと、農業も今度はなかなかできなくなってくる。大規模農業ができなくなってくる。ということで、そこは私はやはり線を引いていくことが世の中には必要だと思います。だから、自分の土地だから何でもやるというのでは、皆で住んでいくということにはなかなかふさわしくないというように思います。どこかで線を引かな

ければならないというのは確かだと思います。その中で、どうやっていけばいいのか。今の子供たちが少なくなった原因というのが果たしてそれなのか、もっと何か根源的なものがあるだろうし、今では子供は1人の女性から1.4人ぐらいしか産まれていないということで、全体としても減ってきているわけです。そういうことを考えたり、いろいろなことを考えていかなければいけません。それからやっぱり地域の魅力というものもあります。私が小学生の頃は、岡山の街の真ん中あたりは本当に人が多かったんです。それが急に今度は減ってきて、今ではまた増えてきた。いろいろな現象がその時の社会状況によって変わってきています。岡山の場合はモーターレーゼーションというのか、高度成長期にどんどんと郊外に出て行った。ですが、先ほどのお話にもありましたように、車を持ってなくなったら街のほうが良いのではないかという人も多くなるわけです。今街の中は高層マンションが多いでしょう。ただ、やはり自分が生まれたところが一番良くて、自然もあり、仲間もいてこういうところが良いと思っている人も多いことは事実です。マクロとして言えば、お金というものはいろいろなところでとても必要になるので、出来るだけお金がかからない、効率的にお金をかけられるようにする為には、街にある程度集まってもらいたいというのは、私は良いことだと思っています。ただ、やはり昔から住んでいる、ここの地区を大切にしたいと思っている人というのはたくさんいます。だからそういう人たちの心というのを大事にしたい。心の本質をどうとっていくのかが、私は自分の仕事にあるのではないかと考えていて、街に集めれば良いというふうには思っていない。そこをどうするかというのを一緒に考えていくということをやっつけていかななくてはならないと思っています。

参加者：愛育委員をしています。この学区は婦人会というものがなく、ほとんどの行事に愛育委員が参加させてもらっています。どこの学区もされていることは同じかもしれませんが、いろいろと忙しいのです。赤ちゃん訪問とか胃癌、肺癌の検診のお手伝い、市の敬老会とか調理実習、研修旅行とか健康体操、バザーなど他にもいろいろ行事がありますが、地域の健康のために会長さんを始め30名ほどの役員で頑張っていきたいと思っています。

この小さい学区でも甲浦のママさんバレーがあるのですが、県代表で全国大会に4回行かせていただきました。地域の方々に本当にいろいろな協力、応援をいただきまして大変頑張っております。県代表ですから、この小さい学区でもやはり努力すればできるんだなと思いました。

市長：集まってスポーツをするなど、何かそういうものがあるといいですね。私も東古松のスポ少をずっと中学の頃していましたが、勝ち進んでいくのは嬉しいですよね。選手そのものも、地区も盛上がりますね。がんばってください。

参加者：小学生と中学生の通学路の道路の道が狭くて危ないのです。前々から市役所へ言っているのですが、市役所からも歩道の話は出ていたのです。南側に歩道をつけて、そこ

を小中学生が通れるようにしたら通学時に危なくないし、車もスムーズに通ることができるのではないかと、前町内会からの引継ぎでその話はあったのですが、しかし、用地買収の問題でストップしているような状態です。

また、町内の中の話ですが、西からずっと県道から中道に入って坂道を下って、そこをずっと 200 メートルほど行ったら、山が迫っているようになっています。山肌を途中までコンクリートのブロックで覆っているのです。しかし途中から岩肌が絶壁のようになっています。そこは木が生えなくて、雨が激しく降ると砂が落ちてきます。この間の台風の日には岩が道路までいくらか落ちて、すぐに南区役所に連絡すると、見に来てくれました。歩くところにも岩が落ちていて、写真も撮って帰ってました。その後、途中まで工事してそこから先の工事はしてくれないのかと聞いたら、工事に反対している家があるとのことでした。工事が止まってしまって何年も経ったら、今後要望しても、市内にはそういうところがたくさんあるから、工事は一番最後になりますと言われました。順番と言っても、民家のすぐ裏ですからもう少し早く現場を見てもらい、直さないといけないということになってくれたらいいのですが、途中止めにしたなら、なかなか進まないということで危険を感じています。

参加者：それに関連した話ですけど、会長を通じて要望書を出したのですが、市の担当は次々替わるので、それはもうしょうがないのですが、引継ぎができていないところがあるのではないかとと思うことがよくあるのです。というのが、同じ要望を何回も繰り返さなければいけない。担当者が替わってしまうと今までの交渉がまたゼロからスタートしなければいけない。市長まで報告されているのだろうか。

市長：最後に厳しい問題が出たのですが、担当者が替わって今までのものが全てゼロになるということはおかしいですね。そういうことは無いようにしていかなければならない。新しく替わってきて、その人が直接タッチしているものを優先したくなるということはゼロではないかもしれません。そういう時は従来からあるものを優先にできるよう、少しプッシュをするというくらいは、あったほうがより動きやすいというのは事実だと思いますね。市長のところへ上げているかというのは、市長名であっても決裁権者は市長でないものが多いわけです。例えば、全部の地区の要望が私のところへ来たとしたらかなりになります。そこは今、区の方に権限をある程度移すと言う話がありますけど、私も一定のものから移していくべきだと思います。そうでないと分からないですからね。だから南区なら南区が判断するようにしていくということ。それも、例えば甲浦学区の話だけ聞けるのではなくて全体から見て優先順位みたいなものが必要です。やはり限られた財源の中でやっていくということは、あまりやりすぎると借金ばかりになる。そういうことを担当者として、また幹部として本当に先ほど出たような生命・財産に関するとかすぐにやらないといけないというものを優先的に見ていくということをやっていかなければいけないということな

のだろうと思います。

我々が間違えていけないのは、市民のお金・税金でやっているということです。何をやるべきかということをごんごんいろんな方から言われますけれども、やはり子供たちに大きなツケを残さないようにするということが我々の使命だと思っています。生命・財産の危機が迫っているというような、緊急的にやらなければいけないというものはあまりそういうことは考えずにやらなければいけないというものはあると思います。それを否定するわけではないのですが、やはり次の世代を担う子供たちのためにあまりツケを残してはいけないということを忘れてはいけないと常に自分に言い聞かせています。ですから議会で、私がどういう判断基準で物事を決めていくんですかと聞かれたときには、岡山がこれからどうなっていくのか、岡山の市民にとってこれは良いことなのか、また今後生まれてくる子供たちが健やかに岡山で生活ができるように考えてやっていきたいと言いました。

参加者：最後に、桃太郎荘が閉館になりまして、解体して今素晴らしい公園になりました。それが去年の暮れに完成しましたというだけで、あとは何もないんです。そこでこのあたりの桜等を植えている中で、その花が咲く頃にこの桃太郎荘の跡地の公園で何か完成式というものはできないでしょうか。まだ期間がありますので、是非とも一つの地域の繋がり、地域の活性化に繋がるようなことをこれから模索していかなければと思っています。

市長：分かりました。地区で地域の方々が盛り上がっていかうということはすごく重要で、私も大賛成です。